

# Hello! FUJISEI

No. 39

高齢者の介護イコール認知症というイメージが強いかもしれませんが、疾病や傷害が原因で要介護状態となるケースも多いものです。厚生労働省の「平成22年版 高齢社会白書」から介護についてみてみましょう。

要介護者等について、介護が必要になった主な原因は、「脳血管疾患」が23.3%と最も多く、次いで、「認知症」14.0%、「高齢による衰弱」13.6%、「関節疾患」12.2%となっています。特に、男性の「脳血管疾患」が35.9%と多くなっています。

介護は、周りの人たちの負担も大きいものがあり、家族の介護や看護のために離職や転職をする人が増えています。

要介護者等からみた主な介護者の

## 高齢者の介護は周りの人にも大きな負担

# 家族の介護や看護で 離職・転職する人も

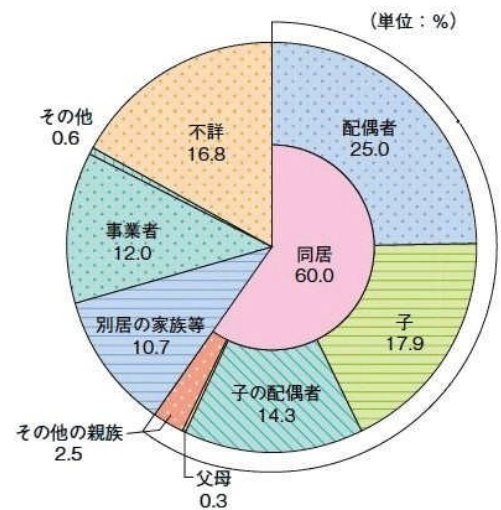
続柄をみると、6割が同居している人が主な介護者です。その主な内訳は、配偶者が25.0%、子が17.9%、子の配偶者が14.3%です。性別では、男性が28.1%、女性が71.9%と、やはり女性が多くなっています。

要介護者等と同居している主な介護者の年齢は、男性では65.8%、女性では55.8%が60歳以上であり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在していることがわかります。

同居している主な介護者が1日のうち介護に要している時間については、最も多いのは「必要な時に手をかす程度」37.2%ですが、「ほとんど終日」も22.3%となっています。要介護度別では、要支援1～2は「必要な

時に手をかす程度」が最も多いですが、要介護3以上では「ほとんど終日」が最も多くなっており、要介護5では約半数がほとんど終日介護しています。

要介護者等からみた主な介護者の続柄



## 要介護者等の性別にみた介護が必要となった主な原因

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成19年）

